

# 問題

## 二〇二五年度 入学試験問題 (三学部共通) 一般選抜 I期1日目

### 国語

時間 五〇分

#### 注意事項

- 試験開始の「合図」があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 「受験票」は、机の上の受験番号票と並べて置いてください。
- 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」、「止め」の合図に従ってください。
- この問題冊子のページおよび解答科目は、左の表のとおりです。
- 解答用紙が別にあります。
- 「始め」の合図後直ちに、解答用紙に受験番号のみを記入してください。
- 試験室に入室してから試験終了までは退室を認めません。
- 試験中に質問のある場合、または気分が悪くなつた場合等には、手を挙げて監督者の指示に従つてください。
- 「止め」の合図後直ちに、筆記を止めてください。
- 退室は監督者の指示に従つてください。「受験票」は持ち帰つてください。

科 目	問題ペー ジ	備 考
国 語	1 ～ 11	

〔I〕次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

「ポピュリズム」というのは定義のむずかしい言葉である。政治用語として頻用されているが、

それは必ずしもその語の定義についての集団的合意が成立していることを意味しない。

注1術語の定義は、ふつう同一カテゴリーに属する他の語との差異に基づいて理解される。だから、「民主主義」の定義ははつきりしている。democracyは誰が主権者であるかによる分類法であるから、これの対義語は「王政（monarchy）」や「貴族政（aristocracy）」や「寡頭政（oligarchy）」や「無政府状態（anarchy）」などである。だから、誰かが「民主主義を①ハイゼツセム」と主張したとすれば、その人は代替するどれかの政体の支持者であることを明らかにしなければならない。

だが、「ポピュリズム（populism）」はそうはゆかない。というのは、ポピュリズムについては、注2その対義語が何であるかについての合意がまだ存在しないからである。

（中略）

では、ポピュリズムという<sup>(b)</sup>一意的な定義が定まらない語によって指称されている「新しい事態」とは何なのか？

私見によれば、ポピュリズムとは「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」という考え方をする人たちが主人公になつた歴史的過程のことである。

個人的な定義だから「それは違う」と口を尖らす人がいるかも知れなけれど、別にみんなさ

んにこの意味で使つてくれと言つていいわけではない。

「今さえよければいい」というのは<sup>(c)</sup>時間意識の縮減のことである。平たく言えば「サル化」のことである。「朝二暮四」<sup>(d)</sup>のあのサルである。

春秋時代の宋<sup>(e)</sup>にサルを飼う人がいた。朝夕四粒ずつのトチの実をサルたちに給餌していたが、手元不如意になつて、コストカットを迫られた。そこでサルたちに「朝は三粒、夕に四粒ではどうか」と提案した。<sup>(d)</sup>するとサルたちは激怒した。「では、朝は四粒、夕に三粒ではどうか」と提案するとサルたちは大喜びした。

このサルたちは、未来の自分が抱え込むことになる<sup>(2)</sup>ソンシツやリスクは「他人」とだと思つてはいる。その点では<sup>(e)</sup>わが「当期利益至上主義」者に酷似している。「こんなことを続けていふと、いつか大変なことになる」とわかつていながら、「大変なこと」が起きた後の未来の自分に自己同一性を感じることができない人間だけが「」なんこと」をだらだら続けることが

できる。その意味では、データを「ごまかしたり、仕様を変えたり、決算を<sup>③</sup>「フンシヨク」したり、統計を「ごまかしたり、年金を溶かしたりしている人たちは「朝三暮四」のサルとよく似ている。

「朝三暮四」は自己同一性を未来に延長することに困難を感じる時間意識の未成熟（「今さえよければ、それでいい」）のことであるが、「自分さえよければ、他人のことはどうでもいい」というのは<sup>(f)</sup>自己同一性の空間的な縮減のことである。

集団の成員のうちで、自分と宗教が違う、生活習慣が違う、政治的意見が違う人々を「外国人」と称して<sup>④</sup>排除することに特段の心理的抵抗を感じない人がいる。「同国人」であつても、幼児や老人や病人や障害者を「生産性がない連中」と言つて切り捨てることができる人がいる。彼らは、自分がかつて幼児であつたことを忘れ、いざれ老人になることに気づかず、高い確率で病を得、障害を負う可能性を想定していないし、自分が何かのはずみで故郷を喪い、（1）ことなど想像したこともない。見知らぬ土地を、飢え、渴いて、さすらい、やむにやまらず人の家の扉を叩いたときに、顔をしかめて「外国人にやる飯はないよ」と言われたときにどんな気分になるものかを想像したことがない。

自分と立場や生活のしかたや信教が違つっていても、同じ集団を形成している以上、「なかま」として遇してくれて、飢えていればご飯を与えてくれ、渴いていれば水を飲ませてくれ、寝るところがなければ宿を提供することを「当然」だと思っている人たち「ばかり」で形成されている社会で暮らしている方が、そうでない社会に暮らすよりも、「私」が生き延びられる確率は高い。囁み碎いて言えば、それだけの話である。

「倫理」というのは別段それほどややこしいものではない。「倫」の原義は「なかま、ともがら」である。だから「倫理」とは「他者とともに生きるための理法」のことである。他者とともにあるときに、どういうルールに従えばいいのか。別に難しい話ではない。「この世の人間たちがみんな自分のような人間であると自己利益が増大するかどうか」を自らに問えばよいのである。

例えば、渋滞している高速道路で走行禁止の路肩を走るドライバーは他のドライバーたちが遵法的にじつと渋滞に耐えているときにのみ利益を得ることができる。全員がわれ先に路肩を走り出したら、彼の利益は失われる。だから、彼は「自分以外のすべての人間が遵法的であり、自分だけがそうでないこと」を、「（2）、「自分のようにふるまう人間が他にいない世界」を願うようになる。

これが「非倫理的」ということである。

これはある種の「（3）」として機能する。だつて「私のような人間がこの世に存在しま

せんように」と熱心に祈つているわけなんだから。この「( 3 )」は弱い酸のようにゆつくり、でも確実に彼の生命力を殺いでゆくことになる。祈りの力を<sup>⑤</sup>侮つてはならない。

もう一度言うが、倫理というのは別に難しいことではない。今ここにはいらない未来の自分を、あるいは過去の自分を、あるいは「そうであったかもしれない自分」を、「そうなるかもしない自分」を「自分の変容態」として、受け容れることである。そのようなすべての「自分たち」に向かって、「あなたがたは存在する。存在する権利がある。存在し続けることを私は願う」という祝福を贈ることである。

倫理的な人というのが「サル」の対義語である。

だから、ポピュリズムの対義語があるとすれば、それは「倫理」である。私はそう思う。たぶん、同意してくれる人はほとんどないと思うけれど、私はそう思う。

自己同一性が病的に<sup>⑥</sup>萎縮して、「今さえよければ、自分でいい」と思い込む人たちが多数派を占め、政治経済や学術メディアでそういう連中が大きな顔をしている歴史的趨勢<sup>すうせい</sup>のことを私は「サル化」と呼ぶ。

「サル化」がこの先どこまで進むのかは、私にはよくわからない。けれども、サル化がさらに亢進<sup>こうしん</sup>すると、「朝三暮四」を通り越して、ついには「<sup>(g)</sup>朝七暮ゼロ」まで進んでしまう。論理的にはそうなる。そのときにはサルたちはみんな夕方になると飢え死にしてしまうので、そのときにはポピュリズムも終わるのである。

かな  
哀しい話だ。

「サルはいやだ、人間になりたい」という人々がまた戻つてくる日が来るのだろうか。来るとよいのだが。

(内田樹『サル化する世界』より。ただし、一部改変してある。)

注一 術語——学術語。専門用語。

注二 手元不如意——家計が苦しく金がないこと。

注三 亢進——高ぶり進むこと。

問一 傍線①・②・③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線④・⑤・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「その対義語が何であるかについての合意がまだ存在しない」と、なぜポピュリズムの定義が定まっているとは言えないのか。「～から。」に続く形で文章中から三十八字で探し、はじめと終わりの五字を記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問四 傍線(b)「一意的」の意味は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア ただ一つの意味や値に帰着した状態であること。
- イ ただ一つの意見を尊重している状態であること。
- ウ 一番良いと思われる意義を見いだした状態であること。
- エ 一見して正しいとわかる意向を取り入れた状態であること。
- オ たつた一人の意思もないがしろにしない状態であること。

問五 傍線(c)「時間意識の縮減」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 時間を守る感覚が薄れ、時間にルーズになること。
- イ 時間を短縮することに一生懸命になること。
- ウ 時間の意識が鈍くなり、先々のことを考えられなくなること。
- エ 時間に鈍感になり、過去と未来が混乱してしまうこと。
- オ 時間経過の感覚が衰え、同じ時間なのに短く感じること。

問六 傍線(d)「するとサルたちは激怒した」を単語に区切ったものとして最も適するものを

ア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア する／と／サルたち／は／激怒／した
- イ すると／サルたち／は／激怒／した
- ウ すると／サルたち／は／激怒／し／た
- エ する／と／サルたち／は／激怒／し／た
- オ すると／サルたち／は／激怒／した

問七 傍線(e) 「わが『当期利益至上主義』者」とは、筆者のどのような意図を表したものか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 近代になつて、ようやくわが国でもポピュリズムが認められるようになつたことにに対する安堵感<sup>あんどく</sup>。

イ 現代社会でポピュリズムが次第に市民権を得てしまつたことに対する皮肉をまじえた危機感。

ウ 現代のわが国においても、春秋時代の宋における「朝三暮四」にみられたような現実逃避があるという指摘と批判。

エ 「今さえ、自分さえよければそれでいい」という考え方をする人たちがわが国のポピュリズムを動かしていることに対する悲壮感。

オ ポピュリズムをはき違えた政治家や実力者がわたしたちの生きる社会を動かしていることに対する落胆。

問八 傍線(f) 「自己同一性の空間的な縮減」の例として適さないものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 自分と宗教や政治的意見が違う人々を「外国人」と称して排除することに心理的抵抗を感じないこと。

イ 幼児や老人や病人や障害者を「生産性がない連中」と言つて切り捨てることができること。

ウ 生活習慣や日常的な感覚が自分とは異なる人々を、平然と異端視したり蔑視したりできること。

エ 見知らぬ土地を、飢え、渴いて、さすらい、やむにやまねず人の家の扉を叩くことなど考えもしないままに生涯を終えたいと願つていてこと。

オ 「なかま」かもしれないと頼つた人に、「外国人にやる飯はないよ」と顔をしかめて言われたときの自分の気持ちを想像したことがないこと。

問九 空欄（一）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 異郷に思い切つて移住する イ 異邦をさすらう身になる  
 ウ 異郷の片田舎に定住する エ 異質な人々と共に暮らす  
 オ 異邦の人々に助けられる

問十 空欄(2)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア また イ 例えば ウ だが エ ただし オ つまり

問十一 空欄(3)二か所には同じ語が入る。(3)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 祈り イ 願い ウ 呪い エ 渴き オ 殺し

問十二 傍線(g)「朝七暮ゼロ」とはどのような状態を表しているか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 飢え死にしそうなところまでコストカットが進んだ状態。  
イ 政治経済や学術メディアでサル化が進行している状態。  
ウ ポピュリズムがその役割を十分果たしている状態。  
エ 倫理がさびれ、論理ばかりが強くなつた状態。  
オ 自己同一性の縮減が限りなく進んだ状態。

〔Ⅱ〕次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

「お前」は御前のこと、貴い相手を名前で呼ぶのが恐れ多いので、その代わりに場所を示している。「貴様」は罵倒語だが、漢字を見ればわかるように、もともとは尊敬語だった。それが時代とともに敬意が遞減し（徐々に減つていって）、とうとう<sup>(a)</sup>マイナスになってしまったのだ。なぜこんなことになるかといふと、多用しているうちに言葉がコモディティ化（平凡化）し、敬意が感じられなくなるからだ。手当たり次第に「貴様」を使っていたら、地位が高いのは誰で、そうでないのは誰なのかわからなくなってしまう。こうして、敬意がどんどんすり減つてしまふのだ。

英語では「わたし」はI、「あなた」はYouしかないが、<sup>(b)</sup>日本語ではその場の状況に合わせてさまざまな言い方がある。世界の言語分布のなかではこれは両極端で、英語はグローバル言語になる過程で誰でもわかるシンプルな用法が好まれるようになり（英語にもThouのような「あなた」を指す言葉があつたが、古語として廃れた）、日本語はドメスティックな世界のなかで、お互いの微妙な距離を調整するために異形の進化を遂げた。

興味深いのは、「おのれ」「われ」が相手を罵倒する言葉になつていることだ。自分自身を罵ることが相手を罵ることになるというのだが、他の言語にあるかはわからないが、かなり変わつた言葉の使い方であることは間違いないだろう。これは、<sup>(c)</sup>日本社会では自他の区別があいまいで、相手を自分の分身のように感じているからではないだろうか。

敬意遞減の法則の典型が、若者のあいだで急速に広まつた「（ 　ー 　）」だ。「いいですか」→「よろしいですか」→「よろしいでしようか」の順で敬意を高めたものの、それもすり減つてしまつたため、より相手と距離を置き、敬意を示すために過去形を加えたのだろう。目の前の相手の意図を過去形で質問するのは<sup>(1)</sup>ムジユンしているが、敬語の原理（相手と距離をとればとるほど敬意が高まる）からは<sup>(d)</sup>正しい「進化」なのだ。

最近、気になるのは、若者が「かしこまりました」を多用するようになつたことだ。ネットのビジネス敬語の解説で、目上の者に「了解しました」を使うのは<sup>(2)</sup>ゴヨウだとされているからのようだ。そうなると「承知しました」か「かしこまりました」になるが、これらはいざれも目下の者が目上の者に使う言葉だ。

このように日本語では、身分の上下がつねに問題になる。ビジネス敬語における「目上／目下」は会社の役職などをいつているのだろうが、そこには「部長は平社員よりも人間として尊い」という<sup>(3)</sup>含意がある。これは明らかに、「すべてのひとは平等」というリベラリズムの原則に反している。

日本語でも「<sup>(e)</sup>敬語の民主化」が進んでいるといわれる。役職にかかわらず「さん」だけで

呼ぶのはその流れだが、その一方で「かしこまりました」のように、時代に逆行するような敬語が広まつてもいる（私が若い頃は、「かしこまりました」は時代劇に出てくる言葉で、実際に使うなど考えられなかつた）。カスタマーハラスメント（カスハラ）が社会問題になつてゐるのも、過剰な敬語によつて、客が自分のことを「人間として尊い」と勘違つてゐるからではないだろうか。

すべての社会で、不用意に相手に触れることはタブー（禁忌）とされてゐる。これには物理的な接触だけでなく、パーソナルスペース（私的空間）に許可なく踏み込むことも含まれる。心理的な繩張りのことで、相手との身分のちがいが大きければ大きいほど距離も遠くなる。

それに加えて、高貴な者を「見る」ことや「話しかける」こともタブーとされている。これは、視線や言葉によつて相手に触れるからだ。

立食パーティを観察してゐると、女同士は顔を向き合つて談笑してゐるのに、男同士は45度の角度で並んで立ち、（2）ように話してゐるのをよく見かけるだろう。これはタブーに性差があるからで、男同士が（3）と攻撃の合図になつてしまふ——不良のケンカは「ガンをつけた」ことで始まる。

男が女に／女が男に（4）と、性的な誘いの合図に解されるが、これは視線によつて相手に触れるからだ。目からなにかの光線が出てゐるわけではなく、明らかに物理法則に反してゐるが、「目ぢからが強い」「視線が痛い」のような表現はどの社会でもぐくふつうに使われるだろう。

より興味深いのは、相手を名指す（言葉によつて触れる）こともタブーとされていることだ。  
(f) ユダヤの神には名前がなく、神を名づけることや、その名を唱えることは<sup>(g)</sup>きびしく禁じられてきた。

直接的に語りかけることは、相手のパーソナルスペースへの<sup>(4)</sup>シンパンで、<sup>(h)</sup>無礼な行為とされる。ハンカチを落としたのを見かけて「すみません」と声をかけるのは、「あなた」と呼びかけるのが無礼に感じられるからだ。謝罪の言葉が使われる時は、「あなたに触れて申し訳ありません」の意味が込められてゐる（英語では“Excuse me.”だが、カジュアル化が進んだ現代では、たんに“Hey”と声をかけるだらう）。

逆に、言葉で触れ合うことで親しさを示すこともできる。ビジネスで相手の言葉を<sup>(5)</sup>遮るのは無礼だが、恋人や友人同士の会話では、合いの手を入れたり、<sup>(6)</sup>唱和したり、遮つたりすることが<sup>(i)</sup>多いほど親密度が高くなる（言葉でじやれあうことは「共感のオーバーラップ」と呼ばれる）。

日本語のさらなる特徴は、ほとんどの会話が、二人称（あなた）なしで成立することだ。こ

れは、できるだけ相手に触れないようにするためで、それとともに、一人称（わたし）が「俺」「ぼく」「あたし」「わたし」「わたくし」のようにTPOに合わせて使い分けられるだけでなく、通常の会話ではあまり使われなくなつた（「わたしは」とあえていうと、強調の意味になる）。日本語のこうした特徴は、主客が融合するベタなムラ社会でつくられてきた日本人の心性をよく表わしているのではないだろうか。

（橘玲『世界はなぜ地獄になるのか』より。ただし、一部改変してある。）

問一 傍線①・②・④のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線③・⑤・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「マイナスになつてしまつたのだ」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 敬意を含んだ言葉が多用されているうちに、敬意がどんどんすり減つてしまつた。  
 イ 手当たり次第に尊敬語を使つていたら、誰が対象なのかわからなくなつてしまつた。  
 ウ 敬意が込められた漢字を使つていたのに、漢字自体の意味が変わつてしまつた。  
 エ 言葉に込められた敬意が減つていつて、反対に罵倒する意味になつてしまつた。  
 オ 敬意を含んだ言葉が次第に使われなくなり、死語のようになつてしまつた。

問四 傍線(b)「日本語ではその場の状況に合わせてさまざまな言い方がある」とあるが、その理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 日本社会では、相手を自分の分身のように感じているため。  
 イ 対話者同士が、お互いの微妙な距離を調整するため。  
 ウ 敬語の原理と文法的な規則は、もともと相反しているため。  
 エ 使う言葉によって、身分の上下が決定されてしまうため。  
 オ 相手との距離のとり方で、上下関係が決まつてしまつたため。

問五 傍線(c)「日本社会では自他の区別があいまいで、相手を自分の分身のように感じている」とあるが、このような社会を筆者はどのような言葉で表しているか、文章中から十四字で探し、記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問六 空欄（1）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア いいでしようか  
 イ いかがでしようか  
 ウ よろしかつたでしようか  
 エ よかつたでしようか  
 オ いかがだつたでしようか

問七 傍線(d)「正しい『進化』」とあるが、筆者がそのように述べる根拠は何か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 相手に對してとる距離と敬意は比例すること。  
 イ もともとの敬語が使われているうちに平凡化されること。  
 ウ 相手に対する敬意を示すには過去形を使えばいいこと。  
 エ もともとは敬語であつても敬意がすり減つてしまうこと。  
 オ 目下の者が目上の者に使える言葉は限られていること。

問八 傍線(e)「敬語の民主化」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア すべてのひとに平等な敬語を使うこと。  
 イ 相手に無礼だと感じさせない敬語を使うこと。  
 ウ 誰を指しているのかわからない敬語を使うこと。  
 エ 相手に親しさを示す敬語を使うこと。  
 オ 相手との距離が近くなる敬語を使うこと。

問九 空欄（2）・（3）・（4）に入る語の組み合わせとして最も適するものを

ア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- |               |             |             |
|---------------|-------------|-------------|
| ア (2) 目を合わさない | (3) 目を合わさない | (4) 目を合わせる  |
| イ (2) 目を合わさない | (3) 目を合わせる  | (4) 目を合わさない |
| ウ (2) 目を合わせる  | (3) 目を合わせる  | (4) 目を合わさない |
| エ (2) 目を合わせる  | (3) 目を合わさない | (4) 目を合わさない |
| オ (2) 目を合わさない | (3) 目を合わせる  | (4) 目を合わせる  |

問十 傍線(f) 「ユダヤの神には名前がなく」とあるが、その理由として最も適するものを

ア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 神を名前で呼ぶと、親密度が高くなるから。

イ 神を名づけると、言葉によって神に触れるから。

ウ 神に直接語りかけることは不可能だから。

エ 神には謝罪の言葉を使うべきだから。

オ 神に物理的に触ることはタブーだから。

問十一 傍線(g)・(h)・(i)の品詞の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア (g)	形容詞	(h)	形容動詞	(i)	形容動詞
イ (g)	形容動詞	(h)	副詞	(i)	副詞
ウ (g)	副詞	(h)	形容詞	(i)	形容詞
エ (g)	形容詞	(h)	形容動詞	(i)	形容詞
オ (g)	形容動詞	(h)	形容動詞	(i)	副詞

問十二 本文中に挙げられている日本語の特徴として適さないものをア～オの中から一つ選

び、その記号を記入しなさい。

ア 自分自身を罵る言葉が相手を罵る言葉になったという、かなり変わった言葉の使い方の変化を遂げた。

イ 一人称（わたし）がTPOに合わせて使い分けられ、ほとんどの会話が二人称（あなた）なしで成立する。

ウ 相手に対する敬意を示すための敬語が存在し、細かく分類すると尊敬語・謙譲語・丁寧語などに分けられる。

エ その場の状況に合わせて一人称、二人称にさまざまな言い方があるという、世界の言語の中で異形の進化を遂げた。

オ 身分の上下がつねに問題になり、ビジネス敬語においては会社の役職が人間としての尊さまでを反映している。

国語

解答用紙

★

I

問一

①

②

③

④

⑤

⑥

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

から。

つて

受験  
番号

国語

解答用紙二

〔II〕

問一	①
問二	②
問三	④
問四	る
問五	⑥
問六	⑤
問七	
問八	
問九	
問十	
問十一	
問十二	

受験  
番号

